

環境調査結果のお知らせ

令和6年8月26日10時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

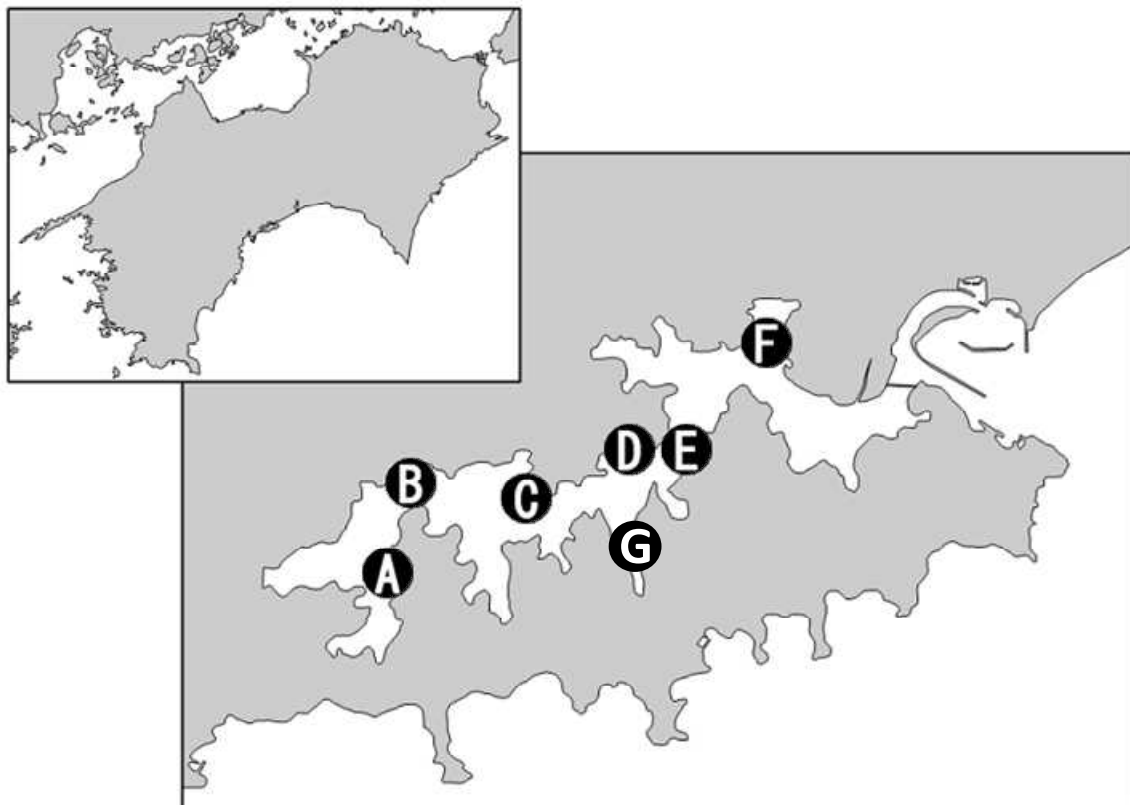
概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なカレニア・ミキモトイが最高で73 cells/mL、シャットネラ属が最高で79 cells/mL、**タカヤマ属が最高で52,000 cells/mL**確認されました。福良でタカヤマ属が濃密な赤潮となっており、養殖漁場にも拡散しています。当該プランクトンは魚類にとって有害であり、**10,000 cells/mL以上**で漁業被害が発生する可能性がありますので十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

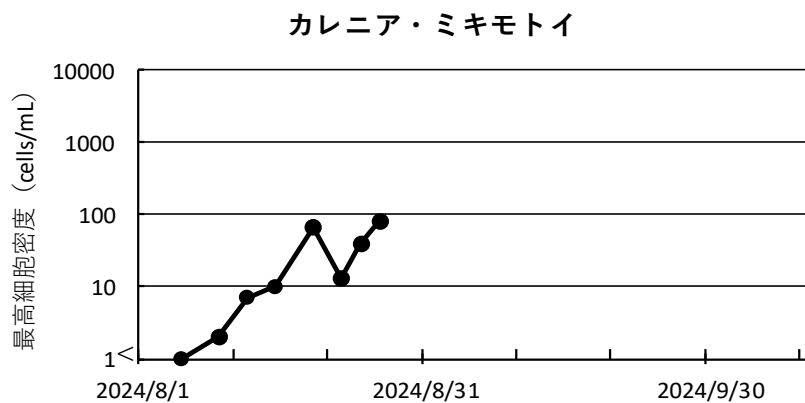
調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	タカヤマ 属	珪藻
A 鳴無 (3.6m) 【10:09】	0	32.0	29.4	7.4	0	0	260	80
	2	32.3	31.0	7.2	0	0	200	300
	5	30.2	31.4	1.5	14	79	260	560
	底層 8.5	29.4	31.4	0.1	0	0	0	100
B 中学校前 (4.5m) 【10:17】	0	32.4	30.0	8.1	0	0	800	60
	2	31.4	31.3	7.5	0	0	280	1,950
	5	30.0	31.5	2.2	23	54	30	200
	10	29.2	31.5	0.6	0	0	0	0
底層 12	29.0	31.5	1.0	0	1	0	150	
C 目ノクソ (3.8m) 【10:29】	0	32.1	29.5	7.9	0	0	880	200
	2	32.3	31.1	8.4	0	0	1,350	740
	5	30.1	31.4	2.7	34	15	60	100
	10	29.1	31.6	1.6	2	0	1	40
底層 15.5	28.9	31.7	1.9	0	0	0	100	
D 光松 (1.8m) 【10:53】	0	32.4	30.1	13.7	0	3	11,900	200
	2	31.3	31.1	12.1	39	15	7,700	500
	5	29.9	31.5	4.2	3	6	580	300
	10	29.6	31.6	4.5	0	0	6	100
底層 17	29.2	31.8	4.4	0	2	0	400	
E 大鹿 (1m) 【11:12】	0	32.3	30.3	14.0	0	45	22,500	80
	2	31.1	31.0	12.0	73	51	5,000	200
	5	29.9	31.5	4.3	3	0	620	160
	10	29.5	31.6	4.4	0	2	53	80
底層 16.5	29.3	31.9	4.9	0	4	0	100	
F 水試小割前 (4.2m) 【11:27】	0	31.7	30.4	9.9	0	0	740	2,500
	2	30.5	31.3	8.4	0	0	3,650	760
	5	30.0	31.6	7.5	0	2	2,000	400
	底層 10	29.2	19.2	4.6	0	3	0	300

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	タカヤマ 属	珪藻
G 福良 (1m) 【10:42】	0	32.6	29.7	14.8	0	1	52,000	0
	2	32.2	30.5	12.7	0	0	12,400	40
	5	30.1	31.5	1.3	0	2	180	300
	10	29.0	31.6	1.0	0	2	0	0
	底層 12	28.9	31.6	1.1	0	0	0	200

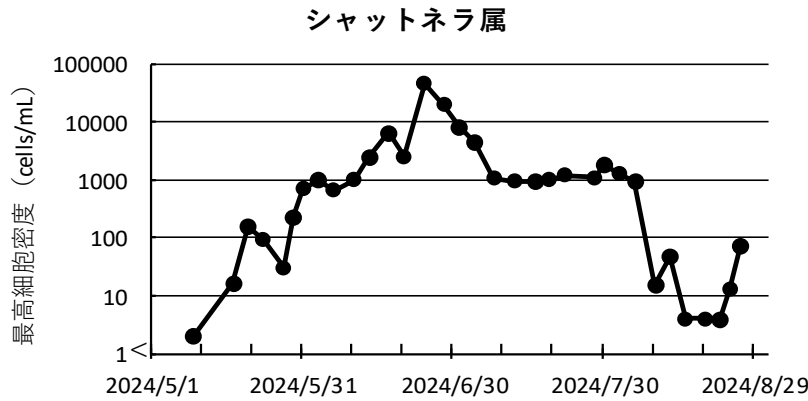


- A: 鳴無
- B: 中学校前
- C: 目ノクソ
- D: 光松
- E: 大鹿
- F: 水試小割前
- G: 福良

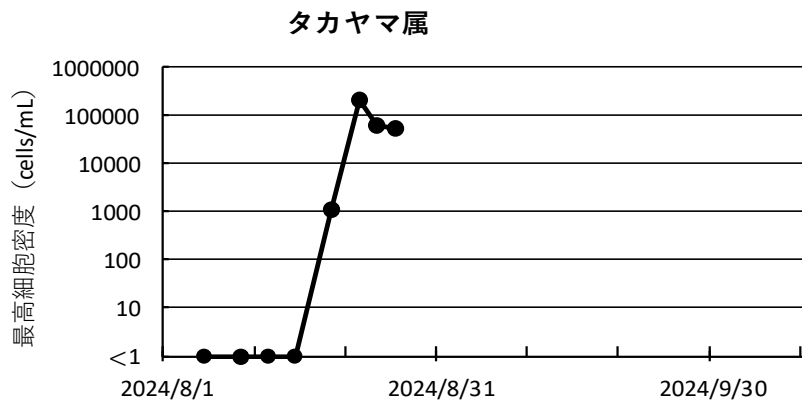
令和6年度 浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイの最高細胞密度の推移



令和6年度 浦ノ内湾におけるシャットネラ属の最高細胞密度の推移



令和6年度 浦ノ内湾におけるタカヤマ属の最高細胞密度の推移



参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。